

革命通信

号外

1978 11
連絡先 横浜中央
郵便局私書箱109号
三月 舎

共産主義者同盟
マルクス・レーニン主義派

迫りくる日米帝の朝鮮侵略反革命戦争に反 対し、又口拙・社会主義革命を目ざす革命 戦争―武装蜂起を準備せよ

米ソ二大超大国の世界支配をめぐる戦争の危機がいよいよ高まっている。と同時に日米帝の対立も激しくなっている。朝鮮への侵略反革命戦争の発動がいよいよ迫っている。

★米ソ二大超大国の覇権争奪戦の激化と
オ三対世界大戦の危機の深まり

この両国は、口を揃ければ、「軍備縮小」「戦略核兵器制限交渉」だど大嘘をつき、実際には、交渉のテーブルに着いたとたん、のしり合い、自分こそが「世界平和」の守護者であると言張し合っている。だが米ソが共に口先きで何を言おうと、今日世界の規模で最大の抑圧者、搾取者であることを隠すことはできない。「平和」のため、会議の裏では植民地支配の確保と、その人の横やり、再分割のための斗争は激化し、帝国主義的獲物を求め、他民族の抑圧、頭上に君臨するための世界帝国主義強盗戦争のための軍備拡張に血眼になっている。米帝・カターは「人権外交」を掲げ、その下でベトナム、インドシナ敗北以降の後退を宥いで登場した、ソ社帝との戦争準備の立て役者となっている。中核子爆弾の製造、ウラム弾の製造、兵器用炭素を進める一方、NATO首脳会議を開催し、ワルシャワ条約軍の増強に抗した、長期防衛計画を採択させ、兵器の共同開発、共同生産、及びそれら諸国の国防費の増加を決定させた。

とされている。日帝は直ちにこれに心を配り、日米共同軍事行動の緊密化の方針を打ち出している。一有専立法策動の主眼は目的の一つはここにある。

他方、ソ社帝は、一四〇〇億ドルの軍事費を投入し、米帝との世界支配をめぐる戦争準備にやっきになっている。民族解放の仮面をなぶり、キューバ軍を攻撃し、地支配確立のための策動は強化される一方である。

こうして、戦争の危機が深まる中で、戦争の勃発を遅らせ、革命の条件を整え、革命の要素を進展させる斗いも引き続き前進している。中国を先頭とした、反米反ソ反覇権斗争とオ三世界の民族解放斗争の前進がそれである。とりわけ、今年八月に締結された、日中平和友好条約はその輝かしい前進である。これにより、日中人民の団結と友誼が強化される一方、ソ社帝の「アジアへの覇権をめぐらした進出は大きな打撃を受けている。

朝鮮侵略反革命戦争策動粉碎！
有事立法粉碎！

10.21 中央総決起集会

6時、宮下公園
10.21集会実行委

朝鮮侵略反革命戦争策動粉砕！
有事立法粉砕！

10.21 中央総決起集会

6時 宮下公園
10.21集会実行委

★朝鮮侵略反革命戦争を目ざす、安保体制の強化を許すな

有事立法が日米帝の朝鮮侵略反革命戦争発動に向けた、その直接的準備であることは明白である。金丸防衛庁長官は、「有事、侵略の凶悪は、朝鮮半島を考へていゝ」と言明し、「朝鮮半島における紛争」を口実として、日軍事政権を先手として南朝鮮に対する新植民地支配を維持するため、朝鮮人民の自主的平和的南北統一斗争、南朝鮮人民の反米反日打倒の民族民主革命の発展と爆発を日米帝の共同した侵略反革命戦争で圧殺せんとしているのだ。「日本、韓国、台湾は運命共同体だ。どの一つがぐらついても日本及びアジアの安定は打たれない。(同)朝鮮半島に於ける平和と安全の維持、確保は図られることは、我が国の利益に合致する。(前衛白書)」として朝鮮革命に対する反革命と帝国主義的特権の維持にむけて、この有事立法策動は進められていゝ。さらには、この目的に沿つた自衛隊の増強と日米共同軍事行動の強化が安保体制の強化の下で進行している。

「日米安保条約の目的を効果的に達成するために、軍事面を含めた日米協力の在り方を研究、協議する」として、日米共同侵略反革命指令部を「日米防衛協力小委員会」の協議を通じて建設せんとしているのだ。この策動である。「有事の際に在日米軍と自衛隊などの様に共同行動するを求め、そのための共同作戦指令部のような作戦調整機構を両政府の合意で作るとした。この策動は、今日、10月の10日回会議を前に「情勢が緊迫してきた際には、米軍と自衛隊の作戦指揮一本化のため指揮調整所を設ける」の「合意」のもとで、その具体的内容を「(一)作戦軍用(二)後方支援(三)情報」の三部会を協議する段階にまで着つていゝ。この日米共同侵略反革命戦争策動準備、その完成化と、有事立法が結びついていゝことは周知の事実である。

自衛隊の増強は「どうせ」といふ、これ又「さすまじい勢いで進められていゝ。」「わが国周辺の国際政治の安定の維持に貢献する」「わが国への侵略を未然に防ぐ」として、まず有事立法にさすまじい「防衛二法」の改悪を策動し、中央指揮所の設置「統幕」

強化を打ち出し、あわせて、15戦斗爆撃機、F3C対潜哨戒機の導入、自衛隊増強を図り侵略反革命戦争準備を一層強化しているのだ。

戦争準備が日増しに高まり、国内反動はありゆる人民斗争への弾圧の強化として進行している。それは、他方社会主義革命に向けた物質的、その他の条件を一層準備し作り出す。こうして労働者被抑圧労働大衆は、マルジョア階級独裁の国家権力の反動化、社会帝国主義の忠勤に抗して、増々共同の反抗を強め、社会主義労働運動と社会主義統一戦線に向けた条件が成熟する。今春期に於いて、先進的労働者を戦斗主力に社会主義革命に向けた革命的高揚の力一歩を戦取され、階級対立、階級斗争は激化し、共産主義的政治と労働運動の結合が要の任務となり、いよいよ社会主義革命のさし迫りつつある。マルジョアの合法的性を打ち破り、より広範なるロレタリア階級の政治的活性化、流動化を促している。我々は、この自衛武装を一層強化させ促すと同時に、人民の真の指導者、社会主義ロレタリアを広範に形成し、マルクス・レーニン主義と社会主義統一戦線の創建の任務を中心とし、反帝民主主義斗争を支持、指導し、それをロレタリア階級独裁、社会主義革命を目ざす革命戦争に武装闘争へ発展、激化せよとせよ。日米帝の朝鮮侵略反革命戦争に反対し、武装闘争に反対し、武装降起を準備せよ。

★社帝、修正主義の帝国主義戦争への協力、加担の祖国防衛主義を粉砕し、武装し闘争の合法的マルクス・レーニン主義を創建せよ。

革命通信の読者諸君、同志友人達、帝国主義戦争の不可避性、緊迫性が体制的危機の中で、ハツキリとその全様を明らかにしている。民社党は、「法的不備は以前から考へていた。」「有事立法は、露きに失した」として、徹頭徹尾、兒やキヲマルジョア階級の忠僕であることを用ひ露呈し、公明堂に、「攻撃的有事立法には反対だが、領土保全的任務を持つ有事立法ならあえて反対しない」とした見解を表面したか動揺し、「有事立法に基本的には反対」と態度をひるがえしている。だが「基本的には何ら変つていない。彼らは「防衛二法の改正には反対しない」と言う立場である。又、社民連は、「どうか」といふ「侵略を受けた際の措置の検討は必要」として、公然と有事立法を賛美し、強盗の手先となつた。社「共」は有事立法反対斗争を打

三の安保斗争に「を掲げ国民共闘会議を結成し「反対」を表明し「斗争」を開始している。

だがこれらいずれの社帝、修正主義政党政も實際はこの戦争に反対はしていない。帝も實際は独占資本主義であり、帝国主義諸列強による世界支配のため、弱少民族の正殺のため帝国主義戦争が決して避けられないのに対して彼らはマルジョア階級独裁の国家権力をそのままだに、小マル平和主義、実社会排斥主義の「平和・民主」非武装中立を振りかざし、マルジョア民主主義を美化し、議会で選出された政府に、戦争に向けた政策の変更をせざるだけであり、客観的にマルジョア階級独裁を支持し、帝国主義を美化している。これでは戦争に最期まで、しかる革命的に反対しえない。

結局、公然と戦争準備に加担するか、隠然とやるかを別にすれば、マルジョア階級に「同情」しなから、マルジョア階級に従属し、その利益のための戦争にマルジョア階級を動員していくのである。かかる社帝、修正主義からマルジョア階級を解き放つ斗争を激めねばならぬ。其の流の議会主義、マルジョアの合法性の口ぐを打ち破つて始めて戦取することか出来たことを総括し、帝国主義戦争に対する最もマルジョアの合法性を認めざる非和解的敵対者としての態度を決定しなければならぬのだ。武装した非合法のマルクス・レーニン主義党と社会主義統一戦線の創造を主要な中心的任務とした、非合法基盤・非合法組織、非合法活動を創造し、マル独・社会主義に向けた革命戦争、武装蜂起の準備と陣型を作り出すねばならぬ。資本の権力を打ち倒さなければ、国家権力が別の階級、すなわちマルジョアに移行しなければ、帝国主義戦争から抜け出すことは出来ない。「レーニン」のだ。

「スローガン」

(一) 迫り来る、日米帝の朝鮮侵略反革命戦争に反対し、マル独・社会主義革命の革命戦争―武装蜂起を準備せよ。

(二) 戦争と帝国一致の道、有事立法粉碎。

(三) 朝鮮革命断固支持、朝鮮人民の自主的平和的統一斗争、南朝鮮人民の反米、反日、打倒斗争断固支持、在日朝鮮人の民族的、民主的権利のための斗争を支持せよ。

(四) 侵略反革命、農業破壊の三里塚空港粉碎、二期工事着手阻止。

(五) 被山差別裁判糾弾、無実の石川氏尊厳、東京高裁の再審却下策動阻止、労働者階級は「左」右の雑和主義を粉碎し、社会主義労働運動と部落解放運動の結合を三つ取り。

(六) 刑法改「正」―保安処分新設攻撃粉碎。

(七) 労働者階級は、帝国主義、改良主義労働運動と対決し、社会主義労働運動を構築せよ。